



1 小樽市学校教育推進計画 基本理念：

「主体的に学び 小樽の未来を創る 心豊かな人作り」

2 学校教育目標：「夢や目標に向かって努力し、やり遂げる生徒」

3 年度の重点教育目標：「主体的にコミュニケーションを図り、最後までやり遂げる生徒の育成」

4 教職員の協働目標：組織として「生徒・保護者に、我々の思いと取組が『行き渡る』」よう努める。

5 教育課程編成の方針：生徒が「自分に何が身に付いたか」「何ができるようになったか」を自覚できるように、教科等横断的で、実生活や実社会との関連を図った（地域の人材・資源を有効に活用した）体験的かつ問題解決的な学びを重視する。

何ができるようになるか

- ☆夢や目標に向かって努力する
- ☆主体的にコミュニケーションを図る（対応力、対話力、協働力 等を含む）
- ☆最後までやり遂げる

適時
評価

何が身に付いたか

- 学びに向かう力・人間性等
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 生きて働く知識・技能

生徒のよさ

- ・明るく素直
- ・与えられた課題には丁寧に取り組む
- ・善悪の判断ができ、決まりを守る

生徒の課題

- ・家庭学習習慣の定着が必要
- ・既習事項を基に、自ら課題を見つけ、解決する資質・能力が必要
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考える資質・能力が必要

何を学ぶか

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた内容
- 新しい時代に必要な資質・能力（例：総合的な学習の時間（SG）を中核とした、自分の個性を生かし、多様な他者と協働して課題を解決する学び、など）

どのように学ぶか

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善、「個別最適な学びと協働的な学び」の実現
- キャリア教育、特別支援教育の充実

実施するために組織として意識を高めること

【教務部】

- カリキュラム・マネジメント（3つの側面：特に地域の教育資源活用）の充実
- キャリア教育に直結するSG、特活等の充実

分掌の役割の明確化

【生徒指導部】

- 自己指導能力、肯定感を高める働きかけ（好意に満ちた言葉がけの徹底 等）
- 家庭・関係機関との連携

【研修部】

- 授業改善による既習事項の確実な定着（各教科等の「見方・考え方」の明示、既習や本時を振り返る場の設定）
- 家庭学習習慣の定着

各分掌が連携して小中一貫教育を進め、銭函地区の教育を充実！

安全・安心を守る体制の整備

- ・新型コロナウイルス感染防止の徹底
- ・いじめの未然防止、不登校への対応
- ・防災・安全教育、健康教育の充実

開かれた学校づくりの推進

- ・社会に開かれた教育課程
- ・コミュニティ・スクール
- ・ICTを活用した発信、多様な他者との協働